

グローバルに発展する韓国・浦項市

ポハン

～日本企業が注目する魅力的都市～

韓国・慶尚北道東海岸の浦項市は、部品・素材企業の誘致に力を入れる。73年に浦項総合製鉄(現ポスコ)が浦項製鉄所を稼働以来、工業都市として発展してきた港湾都市だ。市の魅力や誘致政策をテーマに、

朴承浩浦項市長と日刊工業新聞の井水治博社長が対談した。また市内に生産拠点の建設を決めたイビデンの生田斉彦執行役員と國枝浩司イビデングラフィック代表理事に、投資の背景を聞いた。



言えます。韓国にお客さまがいらっしゃるの、地産地消ができることもメリットです。

井水 なるほど。韓国からの輸出についてはいかがですか。

生田 為替については、ドルとウォンの関係の強さは日本円以上のものがあります。ウォンでもドルでも会社が作れますから、お客さまの顔や商いの状況を見ながら会社の作り方を選べる。そして浦項では迎日港からも釜山港からも荷物を出せますし、飛行場もたくさんあります。

井水 関税障壁の面でも、韓国はFTAなどで日本に先行していますね。続いて国枝様にお伺いします。今後の予定はいかがでしょう。

國枝 2月に建屋が完成したので、以降設備を順次搬入します。量産の立ち上がりは13年度の後半からを予定しています。しっかりと立ち上げ、投資のステップを着実に進めたいと思います。

井水 ありがとうございます。さて、朴市長は総8年間の任期の間に、投資誘致で10兆ウォンを達成する計画をお持ちです。今後の展望はいかがですか。

朴 迎日湾港の迎日は「光を迎える」という意味です。日本からの企業が入るときは、光のスピードで対応させていただきます。浦項市長に就任して6年6カ月ですが、456企業が入り、約9,000人の雇用創出も達成しました。10兆ウォンという大きな目標金額は非常にセンセーショナルでしたが、現在73%ほどを既に達成しています。今年は2兆ウォンを目標としています。投資を決められた企業の皆さまにもぜひ支援をしていただきたいと思います。

両国の相互発展に情熱を注ぐ

井水 日本企業に向けたメッセージをお願いします。

朴 就任以来、日本に情熱を注いできました。姉妹都市である広島県福山市や新潟県上越市、そのほか名古屋や仙台、福岡なども活発に交流しています。日本からの観光客や企業の誘致につながればと思います。

また公務員の考え方もグローバルでなければと思い、1,600人ほどの職員を日本に派遣し、5泊6日の日程で研修を行いました。これからも交流を続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

井水 こちらこそ、よろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

韓国浦項市

市長 朴承浩氏



イビデン株式会社

執行役員 生田斉彦氏



イビデングラフィック代表理事 國枝浩司氏



感謝運動から教育の優秀都市認定へ

井水 近頃浦項では「感謝運動」が話題になっていると伺っています。まず、運動について思いをお聞かせください。

朴 韓国は50年ほど前は非常に貧しい国でしたが、今では世界11位の経済大国になりました。しかし幸せ指数は世界で68位です。自殺率・離婚率は1位、出生率は最下位から2番目。学校でもさまざまな問題が起きています。

その中、私は「感謝運動が問題を解決するのでは」という考えを持つようになりました。感謝運動は去年3月に始まり、1年足らずで中央マスコミでも取り上げられるほど話題になりました。李明博前大統領も大変関心をお持ちで、「各地で運動について話している」とおっしゃっていました。また運動を機に、韓国の教員団体からも教育の優秀都市として認定していただきました。どんな評価よりも嬉しく思っています。

井水 すばらしい取り組みですね。経済発展もですが、国民が幸せに暮らすことが最も大切ですから。日本もほぼ同様の問題を抱えています。残念ながら具体的な国民運動にまで至っていません。

朴 これはもともとポスコで職員対象に始まったものです。開始後、短期間で職員たちの職場における満足度が倍以上になりました。

成長する鉄鋼・R&D・物流環境

井水 企業の人材育成や業績にも有益な運動だと思います。では、浦項の産業構造や立地環境についてお聞かせください。

朴 浦項はポスコが立地して以来、産業都市として造成されました。人口は53万人、韓国のいちばん東にある都市です。産業としては、主にポスコを中心に鉄鋼環境が広がっています。また世界的な大学に成長した浦項工科大学を中心に、R&D環境も非常に整っています。放射光加速器研究所、ナノ技術集

積センター、韓国ロボット融合研究院などさまざまな分野の研究施設も多数あります。ノーベル賞受賞学校と言われるドイツのマックス・プランク研究所のセンターも、浦項に入ることになりました。

またインフラにおいては、迎日湾港が09年に開港し、物流環境も非常に整いつつあります。さらに来年は、韓国高速鉄道(KTX)のソウル-浦項間が開通します。開通すれば1時間50分でつながりますので非常に便利になるはずですよ。

中国の東三省(遼寧省・吉林省・黒竜江省)には、1億1,000万人の人口があります。またその中でも吉林省(琿春市)に、ポスコと現代の物流センターが昨年着工されて建設中です。ロシアと中国の物流が流れやすくなると期待しています。

環境整備による豊かな生活の安定

井水 環境の整備が進んでいますね。誘致の具体的な取り組みを教えてください。

朴 日本企業のイビデン社、東海カーボン社が投資を決められ、現在進めているところです。浦項市では今まで産業団地の造成が不十分だったのですが、国家からの敷地補償が15年までに完成します。1段階・2段階ともに90万坪の用意があります。また浦項テクノパークというところにも80万坪が整っています。09年に設けられた部品・素材専用工業団地では、外国人投資比率が30%以上の企業へ敷地を無償で提供するということになっています。日本企業にとっても有利な条件だと思います。14年には外国人学校も完成しますので、ご家族の生活も安定するでしょう。

井水 いい大学がありますから、産学交流のチャンスもありそうですね。続いて、イビデンの生田執行役員にお伺いします。イビデンは11年9月に浦項市の「迎日湾産業団地」に生産拠点の建設を決定したと発表しました。浦項市を選んだ決め手は何だったのでしょうか。

生田 日本の製造業は大変厳しい状況です。為替や通商政策、法人税、雇用の負担、電気代などたくさんの壁がある中で、

日本に新たに製造拠点を作るの難しい。韓国は日本から近いですし、国際競争力と十分なインフラ・人材があります。また私どもは等方性黒鉛という主要産業製品を作っています。輸出が大変厳しく規制されている難しい製品を作る上で、アジアで唯一のホワイト国であり、日本と同じレベルで国際的に認められている韓国は拠点として魅力でした。中でも浦項市には大変熱心に誘致をしていただきました。ワンストップ行政サービスを早い時期に宣言しておられ、手続きに時間がかからないのもありがたいです。

また日本からの重量物の扱いに迎日湾港の設備をすすめていただきました。熱心な誘致と具体的なサポートの上、提案もしていただけるので大変魅力を感じました。実際、許認可の対応も非常にスピーディーでした。

井水 至れり尽くせりですね。今回の経験を踏まえ、日本企業が海外進出をする場合のポイントを教えてください。

生田 誘致の話はスムーズでも、実際に動きだすと各駅停車になり、大変なことがあります。それから地場でサプライチェーンを作りたいけど、見合う力を持った会社が現地にあるかどうかがわかりづらい。その点浦項には、ポスコさんをはじめ大手に鍛えられたサプライチェーンがあります。日本から近いことも重要ですね。そういう意味でも韓国は魅力ある候補地と



日刊工業新聞社社長 井水治博氏、韓国浦項市長 朴承浩氏、イビデン執行役員 生田斉彦氏、イビデングラフィック代表理事 國枝浩司氏

東北アジアにおける物流拠点、迎日湾(ヨンイルマン)港と成長潜在力の高い都市、浦項(ポハン)が皆様のビジネスをサポートいたします。

- 2009年8月に開港した迎日湾港は、これまで港湾を利用した安価な物流輸送の実現に努めてきました。大邱や蔚山に隣接しているため既存の部品素材メーカーとの連携や人材確保が容易なのが特徴です。
- POSCOや国際的な研究大学のPOSTECHなど、産・学・研連携のR&D環境がビジネス活動をサポートします。
- 外資系企業に画期的なインセンティブを提供する部品素材専用工業団地は、他の地域とは比べものにならないほどのグローバルな投資環境を完備しています。
 - 浦項部品素材専用団地に一定規模以上(100万ドル以上の高度技術随伴事業または500万ドル以上の製造業)を投資した場合、敷地賃貸料を50年間100%減免
 - 法人税、所得税の場合、5年間100%、以後2年間50%減免
 - 取得税は15年間100%、財産税は10年間100%減免

